

クスリ：鎮痛剤

Q3 透析25年目です。あちこちの関節が痛くて整形外科で鎮痛剤をもらっていましたが、昨年、胃潰瘍で吐血してしまいました。その後「潰瘍が再発するかもしれないので処方できない」といわれています。鎮痛剤の服用は無理なのでしょうか？

A3 現在使われている鎮痛剤は、単なる鎮痛作用だけではなく、消炎・解熱作用を持っているため、「消炎鎮痛剤」と呼ばれます。

その主な副作用は、胃腸に対する障害で、胃・十二指腸潰瘍を持っている患者さんには投与できません。また、過去に潰瘍を起こしたことがある患者さんには、慎重に投与しなくてはならないことになっています。

したがって、担当の医師が「処方できない」と判断されたことは、妥当な選択と思われると思います。ただし、痛みが強く、少しでも軽減したい場合、比較的副作用の少ない消炎鎮痛剤を胃腸薬と一緒に服用することは、やむをえない処置として選択されることもあります。その際の注意点を以下に示します。

1) 副作用の少ない薬剤を処方してもらう

血液中に長くとどまっている薬剤よりも、早く体外に排泄される薬剤のほうがより安全です。このような薬剤は、1日3回に分けて服用するタイプに多いことが分かっています（ロキソニン[®]、ロルカム[®]など）。

また最近、胃腸障害の少ないとされる薬剤（セレコックス[®]）が開発されていますが、狭心症などの心臓病を持っている方には使え

ませんので注意が必要です。

2) 投与量、回数を減らす

一般に透析を受けている患者さんは、薬剤の量を減らして投与することが原則となっています。腎臓からの排泄能力が低下し、体内に長くとどまりやすいためです。投与回数を減らすことによっても同じ目的が達せられます。

3) 食直後に服用する

食事の直後に服用することにより、胃腸障害が軽減します。空腹時には、軽食をつまんだり、牛乳を飲んでから服用してください。

4) 胃腸薬と一緒に服用する

あらかじめ胃・十二指腸潰瘍の治療薬と一緒に服用することもあります。また、消炎鎮痛剤による潰瘍を治療する薬剤（サイトテック[®]）も発売されていますが、多くは胃炎に対する薬剤と併用しています。

このような内服薬以外では、胃腸に対する直接的な障害が少ないため、坐薬が選択されることがありますが、体内に吸収された後、間接的に胃腸障害を生じる可能性があります。内服薬と同様に、慎重な観察が必要となります。

（谷澤龍彦／谷澤整形外科クリニック・医師）